

## 最終回

### 家族の中で何を学ぶかー後半

## 愛とは・・・思い起こさないこと

日本ホーリネス教団 川越のぞみ教会牧師  
家族と結婚のカウンセラー FFJ評議員

西岡 まり子

### 最後にお伝えしたいこと

神のかたちで造られた人間だから・・・愛する、愛される喜びを知っていて、愛することを知・情・意をもって求めていくのではないのでしょうか。

最終回にもう一度、第一コリント 13 章の 5・6 節から具体的な愛する態度を学びたいと思います。そして、その心を求めさせていただきたいと思うのです。

### 礼儀に反すること（不作法）をせず

礼儀とは、相手に対する気配り、敬意、慎みに基づく行動だと言われます（コトバンク参考）。実はこの礼儀は世界共通ではなく、育った文化により違います。親子でのキスもハグもなく育った私は、小学生の時に来られたブラジルの宣教師が頬にあいさつのキスをするのが怖くて、逃げまわった記憶があります。ブラジルの文化では、親しみ、愛情の表現のあいさつのキスも、日本の昭和の小学生には、怖い、気持ち悪いとしか感じられませんでした。ごめんなさい！

礼儀の基準は文化や時代により変わるので、自分を基準とするのではなく、相手への配慮、敬意、慎み、そのものが礼儀なのかもしれません。「親しき仲にも礼儀あり」とのことわざがありますが、どんなに親しい身近な関係でも、相手への思いやりがなく、自分の作法で動く時に、礼儀に反することになるのでしょうか。

私たちは、自分の作法をどれくらい意識して行動しているのでしょうか。多くの場合、無意識です。

特に夫婦のような、全てを受け入れて欲しい（甘えの？）関係では、かなり意識的に配慮し、相手の作法に合わせる努力が、愛のある礼儀だと言えるのではないのでしょうか。

